

『ドングリと北上山地』

2009年11月8日（日）10：00～12：40 岩泉町民会館・大会議室（二階）

趣旨

人類の歴史は、常にドングリの木と共にあったといわれます。コナラ、ミズナラ、クヌギなどは、日本では食用として薪炭林として人に利用されるだけではなく、森の動物にとっても重要な資源でありました。

なかでも岩手県岩泉町は、ドングリと人とが昔から密接にかかわりあい、現在でもドングリを使ったパンを焼く家庭があり、商品としてラーメンやクッキーなどが販売されているドングリ文化の中心地でもあります。ここでは、ドングリと日本人とのかかわりあいの過去、現在、未来について、考えてみたいと思います。

●プログラム

司会・趣旨説明 池谷和信（国立民族学博物館）

講演1 野本寛一（近畿大学名誉教授） 堅果類と日本人

講演2 大隈克博（森林総合研究所） ドングリの森のエコロジー

講演3 新屋金蔵（木彫家） 山の暮らしを語る

講演4 八重樫春子（食文化研究家） 主食だった“こんなら”

講演5 岡恵介（東北学園大学） ドングリ文化と岩泉

コメント（三戸幸久） および全体討論



講演会に関する連絡先:

池谷和信（国立民族学博物館）電話（直通）06-6878-8279 ikeya@idc.minpaku.ac.jp

佐々木雅子（NPO法人ぱあとなあ）電話 0194-22-2771 Masako.S@town.iwaizumi.iwate.jp